

主幹部病変における冠血行再建術：PCI vs CABG

南都 伸介 大阪大学先進心血管治療学

経皮的冠動脈形成術(PTCA)は、グリエンチッヒ先生によって1977年に世界で初めて人に適応され、その治療方法が極めて治療侵襲度がきわめて低いことから、またたく間に多くの虚血性疾患症例に適応されるようになった。しかしながら、主幹部病変に対しては長い間絶対禁忌であるとされていた。もっとも、グリエンチッヒ先生が1998年にランセット誌¹⁾に報告した5症例の中には、主幹部病変例が含まれていたのであるが、バルーン形成術後の急性冠閉塞の対応の困難さや、慢性期の再狭窄時に突然死症例があることから絶対禁忌と考えられるようになった。その後、ステントなどのnew deviceが導入され、狭心症のカテーテル治療が冠動脈インターベンションと(PCI)と称されるようになり、主幹部病変例にPCIが再度挑戦的に試みられてきた。

Huangら²⁾は、BMSからDESの移行期である2002年から2004年の3年間に417施設において冠動脈造影がなされた1,276,582例のなかから主幹部病変症例53,548例(4.2%)を抽出し、いかなる血行再建術が選択されたかを検討した。主幹部病変のうち、32,562例(60.8%)において、PCIまたはCABGが選択された。PCIの割合は17.0%→20.5%→21.9%と年度毎に増加し、一方でCABGの割合は83.0%→79.5%→78.1%と減少していた。また、日本心血管インターベンション治療学会におけるPCIのレジストリーである、J-PCIでは2010年度には414施設から65,922例(標的病変104,694)が登録された、そのなかで主幹部病変のPCIは3,114病変(2.97%)であった³⁾。したがって、DES時代になり、主幹部病変が臨床の場ではPCIによる治療対象となっていることは明らかである。さらに本邦においては、今年になってステントの添付文書上から主幹部病変が絶対禁忌から削除された。このようにデバイス環境が大きく変化するなか、主幹部病変例におけるステント治療の妥当性を再検討したくて、「主幹部病変における冠血行再建術：PCI vs CABG」をテーマにこの分野で豊富な知識を有される4人の先生方に執筆をお願いした。金属性ステントの時代から主幹部病変に対して豊富なPCIの経験を有される新東京病院の中村淳先生には「主幹部病変に対するPCI:DES eraになり、何が変わったのか」、京都大学の木村剛先生には世界初の薬剤溶出性ステントCypherステントのレジストリーデータから「本邦における第一世代DESによる主幹部病変治療の現況」、角辻先生には「本邦における第一世代DESによる主幹部病変の治療成績(自験例からの解析)」として自験例ではあるが、5年の長期予後の検討、東邦大学の中村正人先生には「主幹部病変に対するPCIの今後の展望(SYNTAX trailに学ぶもの)」としてSYNTAX trialからDES eraにおけるバイパス手術と冠インターベンションの適応を議論していただいた。

振り返れば、筆者が1982年の2月に施行したPCIいやPTCAでは、42歳の男性、左室機能良好、前下行枝の#7、タイプA病変でありながら、緊急手術に備えて心臓血管外科の先生に手術場で待機していただいた。その当時には、主幹部病変にPCIが可能になる時代が到来するとは考えもしなかった。その、主幹部病変を対象としたSYNTAX trailのようなRCTが実施されたこと自体、PCIが主幹部に適応可能であると世間が認めた証であると考ええる。ただし、DESにて主幹部病変のPCIが解決したわけではなく、蓄積されたエビデンスの解析や他の治療方法との比較から、今後に解決すべき問題点が今回の特集を踏まえて明らかにされれば幸甚である。

文 献

- 1) Gruentzig A: Transluminal dilatation of coronary-artery stenosis. *Lancet* 1978; **1**: 263
- 2) Huang HW, Brent BN, Shaw RE: Trends in percutaneous versus surgical revascularization of unprotected left main coronary stenosis in the drug-eluting stent era: a report from the American College of Cardiology-National Cardiovascular Data Registry (ACC-NCDR). *Catheter Cardiovasc Interv* 2006; **68**: 867-872
- 3) 日本心血管インターベンション治療学会学術委員会：日本における心血管インターベンションの実態調査(J-PCI)2010年度報告. *日本心血管インターベンション治療学会誌* 2012; **4**